

科博サイエンスコミュニケーション・オンラインセミナー

全講座ライブ配信&オンデマンド配信

2026年
3/7(土)
14(土)
21(土)

「科博サイエンスコミュニケーション・オンラインセミナー」は、サイエンスコミュニケーション（以下SC）について多角的に学んでいただくオンライン講座です。今回は、SCを実践的に行ってきた3名の講師（科学館館長、科学コミュニケーター、水族館職員）が、各イベントを実施する際、どのような目的で、どのような工夫をしてコミュニケーションを行っているのか、またどのようにイベントの振り返りを行うのか、自身の経験をふまえてお話しします。これからSCを行うことを考えている方や、自身の活動をブラッシュアップしたい方のご参加をお待ちしています！

3月7日(土) 14:00-15:30 「科学コミュニケーションを広く伝えるには」

イベントというメディアを用いた科学コミュニケーションを企画する時、そこに参加していない人とは、どんな接点を持てるでしょうか？広告媒体の工夫やマスメディアを介したつながり、会場前での呼び込み、報告記事の公開など、様々な手段が思い浮かびます。せっかくの仕掛けをもっと広く共有する方法を、一緒に考えてみませんか。



羽村 太雅（はむら たいが） 手作り科学館 Exedra 館長、日本サイエンスコミュニケーション協会 会長

2017年からサイエンスコミュニケーター養成実践講座2(SC2)で、イベント広報に関する講義等の講師を務める。また、千葉県柏市で自らが主体となって開設した手作り科学館 Exedra を運営し、幅広い年代に向けて研究者との対話の場の提供や体験型ワークショップの実施等、多岐に渡る活動を行っている。



3月14日(土) 14:00-15:30 「場ごとに違う？科学コミュニケーターがいる意味とは」

講演会、パネルディスカッション、サイエンスショー、ワークショップなど科学コミュニケーターが人前に出る場所はいくつもあります。準備から企画実施・登壇、振り返りまで、必要な調整も、注意点も、評価軸だってその場ごとに異なります。多様な事例を振り返りながら、科学コミュニケーターがいる“意味”を考えます。



本田 隆行（ほんだ たかゆき） 科学コミュニケーター

国内でも希少なプロの科学コミュニケーター。「科学とあなたを繋ぐ人」として、科学に関する展示企画や実演の実施・監修、大学講師や対話の場のファシリテーター、行政委員、執筆業、TV・ラジオ・新聞での科学解説など、なんでもこなす。



3月21日(土) 14:00-15:30 「進め！海の生きものたち—観察をサポートするしかけ—」

さまざまな社会教育施設、レジャー施設の中で、水族館の最大の特徴は生きている生きものがいることです。葛西臨海水族園は、来園者が生きものの観察を楽しみながら、自ら生きもののお話を発見してもらうことを大切にしています。自分が携わったプログラムを例に、観察をサポートする工夫や、評価・改善について紹介します。



宮崎 寧子（みやざき やすこ） 公益財団法人東京動物園協会 葛西臨海水族園 教育普及係

国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター(3期)。
2011年から(公財)東京動物園協会葛西臨海水族園に勤務。調査係、飼育展示係を経験したのち、現在は展示解説、教育プログラムの開発など水族館の教育普及活動全般に携わる。

※各講座のライブ配信数日後から1ヶ月間オンデマンド配信をします。

お申込み



二次元コードまたは下記の URL より、
講座の詳細および注意事項等をご確認
いただいた上でお申込みください。
<https://2026-kahaku-sc-online.peatix.com>

【申込締切】各講座実施日の5日前まで
【受講料】各2,500円
【定員】各150名 ※先着順。
※各講座毎にお申込みいただけます。
※3講座セットのお申込み(6,000円)も可能です。セット申込みは3月2日(月)まで。



国立科学博物館